

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル				3.0				
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				3.0				
2 界壁遮音性能				3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0				
1.3 吸音				3.0				
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温				3.0				
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能				3.0				
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御				3.0				
2.3 空調方式				3.0				
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率				3.0				
2 方位別開口				3.0				
3 昼光利用設備				3.0				
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御				3.0				
3 映り込み対策								
3.3 照度				3.0				
3.4 照明制御				3.0				
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				3.0				
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量				3.0				
2 自然換気性能				3.0				
3 取り入れ外気への配慮				3.0				
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	1.00			
1 広さ・収納性				3.0				
2 高度情報通信設備対応				3.0				
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				3.0				
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.7	0.52			
1 耐震性				3.0	0.48			
2 免震・制振性能				3.0	0.80			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20			
1 躯体材料の耐用年数				2.1	0.33			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				1.0	0.23			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				1.0	0.09			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15			
				2.0	0.23			

2.4	信頼性		3.0	0.19	-	-	-
	1	空調・換気設備	-	-	-	-	-
	2	給排水・衛生設備	-	-	-	-	-
	3	電気設備	-	-	-	-	-
	4	機械・配管支持方法	3.0	1.00	-	-	-
	5	通信・情報設備	-	-	-	-	-
3	対応性・更新性		4.3	0.48	-	-	4.3
3.1	空間のゆとり		5.0	0.31	-	-	-
	1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-
	2	空間の形状・自由さ	壁長さが比率0.1より小さい	5.0	0.40	3.0	-
3.2	荷重のゆとり	4500N/m2以上	5.0	0.31	3.0	-	-
3.3	設備の更新性		3.1	0.38	-	-	-
	1	空調配管の更新性	3.0	0.17	-	-	-
	2	給排水管の更新性	構造材を痛めることなく更新、修繕できる。	4.0	0.17	-	-
	3	電気配線の更新性	3.0	0.11	-	-	-
	4	通信配線の更新性	3.0	0.11	-	-	-
	5	設備機器の更新性	3.0	0.22	-	-	-
	6	バックアップスペース	3.0	0.22	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.3
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.8
1	建物の熱負荷抑制		-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用		3.5	0.29	-	-	3.5
	2.1	自然エネルギーの直接利用	3.0	0.50	-	-	-
	2.2	自然エネルギーの変換利用	一部太陽光発電の採用	4.0	0.50	-	-
3	設備システムの高効率化	ERR値29.5%	4.7	0.43	-	-	4.7
		集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	ERR=29.5%	4.7	-	-	-
		集合住宅の評価	3.0	-	-	-	-
4	効率的運用		3.0	0.29	-	-	3.0
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護		2.2	0.15	-	-	2.2
	1.1	節水	1.0	0.40	-	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60	-	-	-
		1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-
		2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.63	-	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減	鉄骨基準強度 F=440N/mm2以上	4.0	0.07	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.25	-	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.21	-	-	-
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.21	-	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	3.0	0.25	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.22	-	-	3.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	材料が4種類以上	5.0	0.32	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避	3.0	0.68	-	-	-
		1	消火剤	4.0	0.50	-	-
		2	発泡剤(断熱材等)	2.0	0.50	-	-
		3	冷媒	-	-	-	-
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率が一般の建築物と同等	3.3	0.33	-	-	3.3
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	3.0	0.25	-	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.50	-	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3.2	0.25	-	-	-
		1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-
		2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-
		3	交通負荷抑制	5.0	0.25	-	-
		4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-
3	周辺環境への配慮		2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	-
		1	騒音	3.0	0.50	-	-
		2	振動	3.0	0.50	-	-
		3	悪臭	-	-	-	-
	3.2	風害、日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	-
		1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-
		2	砂塵の抑制	1.0	-	-	-
		3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-
	3.3	光害の抑制	1.6	0.20	-	-	-
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1.0	0.70	-	-
		2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-